

世田谷区長 殿

世田谷版気候若者会議 参加者一同  
(提出日:令和 8 年 3 月 25 日)

## 若者から世田谷区長への提言書

### 前 文

私たちは、世田谷版気候若者会議に参加した若者として、この提言を自分たちで考え、話し合い、まとめました。

気候変動は、ニュースの中の話ではなく、これからの私たちの暮らしや将来に大きく関わる問題だと感じています。一方で、環境のために何かしたいと思っても、何から始めればよいのか分からなかったり、続けることが難しかったりすることもあります。だからこそ、個人の努力だけに頼るのではなく、自然と行動しやすくなる仕組みや、みんなで取り組める環境が必要だと考えました。

この若者会議では、専門家のお話を聞き、参加者どうしで意見を出し合いながら、「自分たちにできること」と「社会や行政に求めたいこと」の両方を考えてきました。その中で、若者だからこそ気づけること、生活の中で感じている不便さ、こうだったらもっと行動しやすいのにとすることを、できるだけ率直に提言に込めました。

この提言は、完成された答えではなく、世田谷の未来をよりよくしていくための、私たちなりの一歩です。若者の意見として受け止めていただき、これからの世田谷区の気候変動対策や、若者の行動を後押しする仕組みづくりに生かしていただけたらうれしいです。

## 要 旨

世田谷区は「2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロ」を目標として環境施策を推進している。若者世代が気候変動問題を「自分ごと」として捉え、行政や社会に向けた提言づくりを行うことを目的として「世田谷版気候若者会議」が開催された。そこで私たちは、専門家からの学びと対話を踏まえ、マイアクションを後押しする支援の提言7項目と、気候変動対策への提言5項目の計12項目を区長へ提言する。

### A マイアクションのために必要な支援の提言

1. Welcome Place:  
駅から立ち寄りやすい場所で、環境に関する展示・体験を行う
2. 水と氷で地球を冷やそう:  
区施設等への給水・給氷スポット導入で、マイボトル利用と熱中症対策を後押しする
3. 電子決済と環境負荷を組み合わせたアプリ:  
消費と環境負荷の見える化とポイント還元で選択を後押しする
4. (ふるさと)環境納税:  
環境団体への投資・寄付に応じた控除等で、資金と参加を呼び込む
5. 環境活動支援のためのまとめサイトづくり:  
環境団体・企業・活動の情報を一括で見られるポータルを整備する
6. 自分にリターン、企業・地区別環境保全大会:  
企業・地区対抗の仕組みで、参加のきっかけと継続を生む
7. コラボで環境意識を高めよう:  
キャラクター等との協働で認知を高め、参加を楽しくする

### B 気候変動対策への提言

8. サーキュラーエコノミー:  
修理・長期利用が当たり前となる仕組みへの転換
9. 増やすと減らすを住宅で実現:  
再エネ導入(増やす)と省エネ・断熱(減らす)の同時推進
10. 世田谷区エコアンバサダーU15:  
学校・企業・行政が連携した「担い手」育成
11. エコ Pay(せたがや Pay 連携):  
日常のエコ行動を「応援」するポイント設計
12. 食・教育・ゼロエミッション住宅:  
屋上菜園・空き家活用・地域連携で「食」から脱炭素を体験する

本提言は、個人の努力に依存しすぎず、誰もが自然に参加できる制度設計を重視する。  
また、金銭的メリットに限らない「褒められる・認められる」「応援されている」という感覚を取り入れ、行動変容を後押しする。

## 1. 提言の背景

### 1-1. 気候危機と自治体の役割

気候変動は、猛暑・豪雨などの形で生活に影響を与え、将来世代ほど影響が大きい課題である。自治体は、地域の暮らしと産業に最も近い主体として、制度・公共調達・教育・地域連携を通じて、脱炭素型の暮らしへ移行する「しくみ」を整える役割を担う。

### 1-2. 若者の参画が必要な理由

2050年に社会の中心的存在となる若者世代は、将来影響を最も長く受ける当事者である。同時に、学校・就職・子育てなど人生の転換点にあり、生活や価値観が変わりやすい時期でもある。若者の声を反映した政策は、将来にわたり持続可能であるだけでなく、同世代への波及も期待できる。

## 2. 世田谷版気候若者会議の概要

### 2-1. 会議の位置づけ

気候市民会議とは、無作為に選ばれた市民が複数回の会議に参加し、専門家の話を聞きながら市民同士での話し合いを重ね、気候変動に関する対策や取組を検討する手法である。世田谷版気候若者会議は、この考え方を踏まえ、若者世代を対象として開催された。

### 2-2. 開催日程・テーマ

全3回の会議が開催された。

- 第1回:令和7年11月16日  
「マイアクションを考える」
- 第2回:令和7年12月7日  
『わたしたち』が気候変動を止めるためにはどうしたらいいか考える  
→提言 A マイアクションのために必要な支援の提言
- 第3回:令和8年1月25日  
「わたしたちの未来のための気候変動対策を考える」  
→提言 B 気候変動対策への提言

### 2-3. 参加者募集・参加状況

参加者は、無作為抽出による環境アンケート(15歳~29歳の3,000人を抽出)等、複数の方法で募集された。参加者数は、第1回28人、第2回21人、第3回15人であり、学齢・職業の多様性を確保しつつ運営された。

## 3. 提言作成の考え方(原則)

### 3-1. 行動変容は「負担」ではなく「後押し」で起こす

環境負荷の軽減行動を促す際、金銭的な得だけでなく、人から褒められる・認められることも大きな動機づけになり得る。また、ポイント付与など少額でも「応援されている」という感覚が行動を後押しする。罰則だけでは社会が窮屈になるため、基本は「損にならない仕組み」を整え、緩い誘導として「得」を用いる。

### 3-2. 多様な若者への届きやすさを前提とする

第3回では、時間・費用・情報・移動などが障害となっている点と、障害を下げる工夫を整理して提言づくりを行った。したがって、各提言には「届きやすさ」の観点(時間・お金・移動・言語/情報・対面負荷)を組み込み、参加できない人をつくらない設計とする。

### 3-3. 世代・立場の違いを踏まえた合意形成

若者だけで政策を議論すると高齢者等の他世代からの反対を受ける可能性があるため、政策を考えるうえで高齢者の視点からのチェックを組み込むことが必要である。よって、モデル事業→評価→改善→拡大のサイクルと、説明可能性(納得感)を重視する。

## 4. 区長へのお願い(横断の要請)

提言5項目は分野が異なるが、実装段階では共通して以下を要請する。

- 1) 小さく試行し、評価し、改善して拡大する「試行型」で実施すること。
- 2) 実施後も若者が改善提案できる継続的な参画の場を確保すること。
- 3) 施策の利用者にとっての「手続き負担」を減らし、情報を分かりやすく届けること。
- 4) 取組の成果(CO<sub>2</sub>削減や参加者数など)を可視化し、区民と共有すること。

## 5. 提言の詳細

### A マイアクションのために必要な支援の提言

#### **提言1 Welcome Place(誰もが立ち寄れる環境の学び・出会いの場)**

##### 5-1-1. ねらい(望ましい状態)

環境に興味関心が薄い層を含め、日常の動線上で『ふらっと立ち寄れる』入口を設け、行動のきっかけを増やす。

##### 5-1-2. 何をしてほしい(制度・仕組みの要請)

- 駅から立ち寄りやすい場所を提供し、展示だけでなくクイズ形式等で参加しやすくする。
- 環境への興味関心が薄い人でも、立ち寄ることによって考えるきっかけを得られるようにする。

##### 5-1-3. 主な実施主体(想定)

- 世田谷区
- 地域団体

##### 5-1-4. どうやって実現する(具体の仕組み・実施ステップ案)

- モデル拠点を1~2か所(駅近・区施設等)で試行し、展示+参加型(クイズ等)のコンテンツを実装する。
- 学校・地域団体・企業との持ち回り企画で、常設+定期イベントを組み合わせる。

#### 5-1-5. 届きやすさ(多様な若者への配慮)

- 時間:短時間で参加できるメニュー(通学・通勤動線上、オンライン等)を用意する。

#### 5-1-6. 期待される効果(気候変動対策+共便益)

- 環境に配慮した行動の増加
- 環境イベント開催の増加
- より多くの人に伝える工夫の促進

### **提言 2 水と氷で地球を冷やそう(給水・冷却支援でマイボトルを増やす)**

#### 5-2-1. ねらい(望ましい状態)

マイボトルを当たり前にし、ペットボトルごみの削減と熱中症対策を同時に進める。

#### 5-2-2. 何をしてほしい(制度・仕組みの要請)

- 区施設に給水等の仕組みを導入する。
- アプリ等で利用回数を管理し、特定の人が大量利用しない工夫を行う。
- マイボトル利用を増やし、熱中症対策にも資する。

#### 5-2-3. 主な実施主体(想定)

- 世田谷区・学校/教育機関・企業/お店

#### 5-2-4. どうやって実現する(具体の仕組み・実施ステップ案)

- 区施設から段階的に設置し、利用回数管理等の運用ルールを整備する。
- 併せて、熱中症予防とマイボトル推奨の情報掲示を行う。

#### 5-2-5. 届きやすさ(多様な若者への配慮)

- お金:無料または低負担を前提としつつ、段階的導入(少しずつ広める)で運用費を調整する。
- 時間:短時間で参加できるメニュー(通学・通勤動線上、オンライン等)を用意する。

#### 5-2-6. 期待される効果(気候変動対策+共便益)

- ごみの減少
- 熱中症予防の啓発
- 経済的支援
- 自販機利用の減少

### 提言 3 電子決済と環境負荷を組み合わせたアプリ(消費と環境負荷の見える化+ポイント還元)

#### 5-3-1. ねらい(望ましい状態)

家計(節約)と環境負荷を結びつけ、日常の買い物から無理なく行動変容を促す。

#### 5-3-2. 何をしてほしい(制度・仕組みの要請)

- 消費金額と商品の環境負荷を可視化し、評価に応じてポイント還元を行う。
- 節約意識と環境意識を結びつけ、意識改革を後押しする。

#### 5-3-3. 主な実施主体(想定)

- 世田谷区・学校/教育機関・企業/お店・地域団体・若者自身

#### 5-3-4. どうやって実現する(具体の仕組み・実施ステップ案)

- 電子決済データ(購入品目等)と環境負荷指標を紐づけ、わかりやすい表示とポイント設計を行う。
- 学校・大学・企業での利用を入口に周知し、家族・友人への紹介で広げる導線を用意する。

#### 5-3-5. 届きやすさ(多様な若者への配慮)

- 時間:短時間で参加できるメニュー(通学・通勤動線上、オンライン等)を用意する。

#### 5-3-6. 期待される効果(気候変動対策+共便益)

- 節約と当事者意識の向上

### 提言 4 (ふるさと)環境納税(寄付・投資に応じた税控除で活動資金を循環させる)

#### 5-4-1. ねらい(望ましい状態)

環境活動への資金循環をつくり、関心はあるが一步踏み出せない層の行動を後押しする。

#### 5-4-2. 何をしてほしい(制度・仕組みの要請)

- 環境負担の見える化等に取り組む団体への投資/寄付の額に応じ、区へ支払う税の控除につなげる。
- 実質的に税が『区→団体』へ移動する仕組みを設計する。
- 税制という身近な入口から、環境への関心と一步目を生み出す。

#### 5-4-3. 主な実施主体(想定)

- 世田谷区
- 若者自身

#### 5-4-4. どうやって実現する(具体の仕組み・実施ステップ案)

- 区として制度設計(対象団体の要件、透明性、控除の仕組み)を整理し、試行枠を設ける。
- 寄付先の活動成果を見える化し、納得感と継続寄付を高める。

#### 5-4-5. 届きやすさ(多様な若者への配慮)

- 時間:短時間で参加できるメニュー(通学・通勤動線上、オンライン等)を用意する。

#### 5-4-6. 期待される効果(気候変動対策+共便益)

- 環境団体への自発的投資の増加
- 税制への納得感向上

### **提言 5 環境活動支援のためのまとめサイトづくり(信頼できる情報の一括提供)**

#### 5-5-1. ねらい(望ましい状態)

『情報が分散していて参加しにくい』障害を下げ、活動参加のハードルを下げる。

#### 5-5-2. 何をしてほしい(制度・仕組みの要請)

- 環境団体・企業・活動情報を一括で見られるポータルサイトを整備する。
- 『興味→活動参加』への壁をなくし、気軽に参加できる情報を精査して提示する。
- オンラインも含め、需要のすき間に応える種類の多さを確保する。

#### 5-5-3. 主な実施主体(想定)

- 世田谷区・学校/教育機関・企業/お店・地域団体

#### 5-5-4. どうやって実現する(具体の仕組み・実施ステップ案)

- ポータルサイトで『イベント』『ボランティア』『学び』等をカテゴリ化し、検索性と信頼性(情報精査)を担保する。
- 学生運営・参加者発信等も取り入れ、更新とコミュニティ形成につなげる。

#### 5-5-5. 届きやすさ(多様な若者への配慮)

- 言語:多言語対応を段階的に拡充する。
- 時間:短時間で参加できるメニュー(通学・通勤動線上、オンライン等)を用意する。

#### 5-5-6. 期待される効果(気候変動対策+共便益)

- 参加人数の増加
- コミュニティ形成
- 地域活性化

### 提言 6 自分にリターン:企業・地区別 環境保全大会(メリット提示で参加のきっかけをつくる)

#### 5-6-1. ねらい(望ましい状態)

関心が薄い層に対しても、メリットと楽しさを入口に参加のきっかけをつくる。

#### 5-6-2. 何をしてほしい(制度・仕組みの要請)

- 期間を決め、地区・企業ごとに応募できる仕組みを設ける。
- 省エネ・ごみ等の部門別に削減率で評価し、個人にも企業にも景品や評価につなげる。
- スポンサー等を組み込み、関心が薄い層へ『メリット』を提示して参加を促す。

#### 5-6-3. 主な実施主体(想定)

- 世田谷区・学校/教育機関・企業/お店・地域団体・若者自身

#### 5-6-4. どうやって実現する(具体の仕組み・実施ステップ案)

- 企業・地区単位で参加できる仕組みとし、削減率等の評価指標を明確化する。
- スポンサー等の協力を得て、景品・評価(PR)により参加インセンティブを設計する。

#### 5-6-5. 届きやすさ(多様な若者への配慮)

- 時間:短時間で参加できるメニュー(通学・通勤動線上、オンライン等)を用意する。

#### 5-6-6. 期待される効果(気候変動対策+共便益)

- 環境への関心形成
- 取組の外部 PR
- ごみ処理費・CO<sub>2</sub> の削減

## **提言 7 コラボで環境意識を高めよう(キャラクター等との連携で認知→参加へ)**

### **5-7-1. ねらい(望ましい状態)**

興味のない層に届く広告・特典設計で、認知から参加への導線をつくる。

### **5-7-2. 何をしてほしい(制度・仕組みの要請)**

- 環境とキャラクター等のコラボ広告(バス・電車等)で認知率を高める。
- バス乗車回数の特典(地域で使える商品券等)や、環境活動のポイント制を組み合わせる。
- 環境イベント参加特典をコラボグッズにする等、第一歩を後押しする。

### **5-7-3. 主な実施主体(想定)**

- 世田谷区・企業/お店

### **5-7-4. どうやって実現する(具体の仕組み・実施ステップ案)**

- 交通広告等で認知を広げ、参加特典(商品券・コラボグッズ等)を設計する。
- 対面参加が難しい層には、映像視聴等の形も含めた入口を用意する。

### **5-7-5. 届きやすさ(多様な若者への配慮)**

- 対面:人が多い場が苦手な人にはオンライン等の参加余地を用意する。
- 時間:短時間で参加できるメニュー(通学・通勤動線上、オンライン等)を用意する。

### **5-7-6. 期待される効果(気候変動対策+共便益)**

- 環境を意識した生活が自然になる

## **B 気候変動対策への提言**

## **提言8 サーキュラーエコノミー:修理・長期利用が当たり前となる仕組み**

### **5-8-1. ねらい(望ましい状態)**

家電等が「買い替えた方が安い」状況となり、修理文化が衰退している。大量消費・大量生産が続く限り、資源消費と廃棄が加速し、ごみ削減も進みにくい。そこで、製品を長く使うことが自然に選ばれる環境を整え、循環型社会へ転換する。

### **5-8-2. 区長への要請(制度・仕組み)**

- A) 修理して繰り返し長く使える製品を製造する企業を優遇する(税制等の支援を含む)。
- B) 修理に関する技術者を育成し、国家資格や企業認定マーク等の制度を整備する。
- C) 5~10年で壊れる設計・文化に対し、製品を5~10年契約にする等、供給側・消費側双方に利点がある長期利用モデルを導入する。

### 5-8-3. 実現のための具体策(案)

#### 1) 「修理・長寿命」評価の仕組み

- 区内事業者を対象に、修理可能性(部品提供年数、修理窓口、保証/サブスクの有無など)を評価する仕組みを設け、認定マークとして可視化する。
- 認定企業を区の広報やイベント、公共施設で優先的に紹介し、販路・信頼を支援する。

#### 2) 修理人材の育成・マッチング

- 技術者の学び直し(講座)と、企業・店舗とのマッチングを支援する。
- 資格制度の整備は国制度を要するが、区としてモデル認定(修理人材バンク等)を先行し、国への提案につなげる。

#### 3) 長期利用モデルの試行

- 区の公共調達(備品・家電等)で長期保証・修理優先・契約型の導入を試行する。
- 事業者には、長期契約型のビジネスモデル(リース・サブスク・下取り・修理込み)を促し、区が広報・認定で後押しする。

### 5-8-4. 届きやすさの工夫(案)

- 時間: 修理相談の予約・受付をオンライン化し、駅近・区施設での相談日を設ける。
- お金: 修理費の一部補助や、認定事業者の割引クーポンを検討する。
- 情報: 認定マークの意味を簡潔に示し、比較しやすい一覧を提供する。

## 提言9 増やすと減らすを住宅で実現:再エネ導入+断熱改修

### 5-9-1. ねらい(望ましい状態)

住宅はエネルギー消費の大きい領域であり、再生可能エネルギーの導入(増やす)と、省エネ・断熱(減らす)を同時に進める必要がある。また、空き家問題が増加する中、断熱性を高めることでエネルギー効率を向上させ、建物を長く使えるようにすることが重要である。

### 5-9-2. 区長への要請(制度・仕組み)

- A) 太陽光パネル設置の補助を行う。
- B) 断熱性能を上げるための補助を行う。
- C) 太陽光パネル設置が難しかった場所(窓・外壁等)も含め、導入可能性を検討する(例:ペロブスカイト太陽電池)。

### 5-9-3. 実現のための具体策(案)

#### 1) ワンストップ相談・診断

- 区が窓口となり、「我が家でできること」(太陽光・断熱・給湯・窓改修等)の簡易診断を提供する。
- 見積比較や施工事業者の紹介(登録制)までつなげ、情報の非対称性を縮小する。

## 2) 補助制度の設計(わかりやすさ重視)

- 補助は、申請が複雑だと利用されにくい。必要書類の簡素化、オンライン申請、モデルケース(費用・削減効果)の提示を行う。
- 低所得世帯・賃貸・集合住宅など、導入障壁が高い層へは上乘せ支援や別メニューを設ける。

## 3) 「設置困難箇所」への技術実証

- ペロブスカイト太陽電池等、軽量・柔軟な技術の実証を、区有施設やモデル住宅で行い、導入ガイドを作成する。

## 4) 空き家・リフォームと連動

- 空き家活用・改修支援の制度と、断熱改修補助を連動させ、利活用と省エネを同時に促す。

### 5-9-4. 届きやすさの工夫(案)

- お金: 初期費用負担が最大の壁である。分割・リース、金融機関との連携、補助の前払い/立替え等を検討する。
- 情報: 削減効果(光熱費・CO<sub>2</sub>)を「見える化」し、導入後のメリットを実感できる仕組みを付ける。

## 提言10 世田谷区エコアンバサダーU15:担い手を育てる環境教育の刷新

### 5-10-1. ねらい(望ましい状態)

従来とは違う「インパクトのある環境教育」を実現し、学びを行動につなげる担い手を育成する。U15(主に小中学生)段階で、地域の企業・団体とつながり、継続的に参加できる仕組みが必要である。

### 5-10-2. 区長への要請(制度・仕組み)

- A) 学校が企業と連携し、環境問題に関するプロジェクトやイベントを開催できる仕組みを整える。
- B) 行政として、学生にインパクトのある環境教育を実施する。
- C) 「世田谷区エコアンバサダーU15」を制度化する。
- D) 環境教育に携わる団体・企業への補助(協働の原資)を用意する。

### 5-10-3. 実現のための具体策(案)

#### 1) 授業×課外プロジェクトのセット化

- 第三者の専門家が小中学校で課外学習の授業を実施し、授業後も生徒が自由に参加できる環境活動プロジェクト(または環境ボランティア)を設け、質の高い環境教育を実現する。
- 学校内に閉じず、地域のNPO、企業、大学等とつながる導線をつくる。

## 2) アンバサダー制度(承認と継続性)

- 認定(バッジ・カード等)と発信機会(区の Web/SNS、イベントでの発表)を付与し、継続の動機づけとする。
- 活動は「競争」より「協働」を重視し、チーム単位の認定や、達成の見える化を行う。

## 3) 実施校・連携先の拡大

- まずはモデル校で開始し、教材・運営手順・安全管理の標準化を行ったうえで拡大する。
- 企業・団体側の負担を下げるため、区がマッチングとコーディネートを担う。

### 5-10-4. 届きやすさの工夫(案)

- 時間: 放課後・休日だけでなく、授業内でも完結するメニューを用意する。
- 移動: 学校内や近隣で実施できる活動を基本とし、遠方活動は希望制とする。
- 対面: 発表が苦手な生徒にも、制作・記録・運営など多様な役割を用意する。

## **提言11 エコ Pay(せたがや Pay 連携): 日常のエコ行動を「応援」するポイント設計**

### 5-11-1. ねらい(望ましい状態)

日常生活で環境へ配慮する行動をとれば、インパクトが大きい。例えば、世田谷区民 92 万人の 10%が 1 本ストローを断れば 9.2 万本削減できる。小さな行動を積み重ねやすくするため、エコ行動を「応援」する仕組みを設計する。

### 5-11-2. 区長への要請(制度・仕組み)

- A) せたがや Pay に連動できる仕組みにする(ポイント相互交換を含む)。
- B) 企業・店舗側がせたがや Pay を使えるよう参画を促す。
- C) イベント参加、サステナブルグッズ購入、ストロー辞退、エコバッグ使用等でポイントが貯まる仕組みを整える。
- D) 環境団体・NPO の情報を一括で見られるポータルサイトを設立し、イベントやボランティア募集情報を掲載する。

### 5-11-3. 実現のための具体策(案)

#### 1) 対象行動の設計(公平性と検証可能性)

- 「誰でもできる」行動(ストロー辞退、リユース容器利用等)と、「参加が必要」な行動(イベント・ボランティア)を分け、参加障壁を下げる。
- 実証として、区主催・協力イベントから開始し、レシート連携や QR チェックイン等で不正防止を図る。

## 2) 「応援」の体験設計(承認の仕組み)

- ポイントは単なる割引ではなく、「あなたの行動が地域をよくした」というフィードバック(CO<sub>2</sub>やごみ削減の見える化)とセットで提供する。
- 少額でも「応援されている感覚」が行動を後押しするという学びを反映し、継続しやすい設計とする。

## 3) 広報・参加の入口の多様化

- 環境に興味のない層にも届くよう、キャラクター等とのコラボ広告(交通機関等)や、バス乗車回数等の特典設計も組み合わせる。
- 日本語が得意でない人には、海外で人気の作品等とのコラボを含めるなど、多言語・文化的アクセシビリティを工夫する。
- 人が多い場や対面が苦手な人には、映像視聴等の形式を入口とし、その後オンラインで参加・購入に進める導線を用意する。

### 5-11-4. 届きやすさの工夫(案)

- 時間: 通勤通学の動線(駅・商店街)で完結する参加方法を用意する。
- お金: ポイントは「追加負担」を求めず、既存の購買や行動に上乗せで付与する。
- 情報: ポータルで「今日できること」を提示し、参加ハードルを下げる。

## 提言12 食・教育・ゼロエミッション住宅: 屋上菜園×空き家活用×地域連携

### 5-12-1. ねらい(望ましい状態)

食料(肉・野菜など)を生産する過程でも CO<sub>2</sub> が排出される。まずは世田谷区でとれた野菜などを食べることを通じ、環境にやさしい「食」について考えるきっかけをつくる。同時に、空き家の屋上等の未利用空間を活用し、教育・地域経済・脱炭素を一体で進める。

### 5-12-2. 区長への要請(制度・仕組み)

- A) 行政・企業に対し、ゼロエミッション建築、屋上の貸し出し、屋上菜園を進める。
- B) 学校・教育機関、地域団体に対し、利用者募集(イベント・体験)や植樹等の参加機会を拡充する。
- C) 行政に対し、収益の配分制度(海の植藻・山の植樹等)を設計する。
- D) アプリで PR し、世田谷区にゆかりのあるキャラクター等を活用し、区民にポイント加算(せたがや Pay 等)を行う。

### 5-12-3. 実現のための具体策(案)

#### 1) 屋上菜園・貸出農場のモデル化

- 空き家の屋上を活用し、貸し出し農場や野菜を作れるスペースを設ける(食・教育・空き家活用)。
- 企業ビル・公共施設・集合住宅等も対象とし、安全管理(荷重・転落防止・水管理)を標準化する。

## 2) 教育・体験プログラムの実装

- 学校授業・探究学習と連動し、栽培→調理→食べる→振り返るまでを体験する。
- 植樹・植藻などの自然再生と組み合わせ、「都市の消費」と「海・山の吸収源」をつなぐ学びとする。

## 3) 収益配分と地域連携

- 菜園利用料やイベント参加費等の一部を、海の植藻・山の植樹等に配分する制度を設計し、参加者が貢献を実感できる形にする。
- 近隣自治体や生産者と連携し、地産地消の流通や学習機会を拡充する。

## 4) 発信と参加の入口

- 若者にも届く形で発信することを重視し、アプリ PR やキャラクター活用で「楽しさ」を入口にする。
- 参加者にはポイント加算(せたがや Pay 等)を行い、継続参加を後押しする。

### 5-12-4. 届きやすさの工夫(案)

- 移動: 身近な拠点(学校・公共施設・駅近ビル等)に分散配置する。
- 時間: 短時間の参加メニュー(30分の作業、週末のみ等)を用意する。
- 対面: 一人参加・家族参加・オンライン学習など複数の参加形態を用意する。

## 6. 結び

以上の提言は、若者が学び、議論し、生活の中での実践(マイアクション)を重ねた上で、行政と社会へ向けてまとめたものである。世田谷区が目標とする脱炭素社会の実現に向け、区長のリーダーシップの下で、試行と改善を繰り返しながら実装されることを強く望む。

以上